OMUP

大阪公立大学共同出版会

ニュースレター

No.15

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目次：

・第 2 回 NPO 法人大阪公立大学共同出版会総会終わる ……1
・第 14 回及び第 15 回 OMUP サロン報告 ……2
・出版、もう一つの社会貢献 －助成出版のすすめ－ ……3
・OMUP 事務局からのお知らせ ……5
・新刊書の紹介 ……5
・新顔紹介 ……6

第 2 回 NPO 法人大阪公立大学共同出版会総会終わる

常務理事　小股 憲明

去る 6 月 2 日、大阪府立大学学術情報センター視聴覚室において、大阪公立大学共同出版会（OMUP）の総会が開催された。総会成立の確認、議長選出、議事録署名人選出の後、任意団体時、および NPO 法人化された後の平成 18 年度事業決算についての報告があり、引き続き平成 19 年度事業予算案が承認された。議題の審議内容の概略は以下の通りである。

1．平成 18 年度事業決算（表 1、表 2）についての承認

平成 18 年度は、11 月 1 日以降 NPO 法人に切り替わったため、平成 18 年 4 月 1 日～10 月 31 日が任意団体としての決算報告、平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日が NPO 法人としての決算報告が、それぞれ行われた。そのため、会計監査報告も、任意団体時と NPO 法人時に分けて行われた。なお、法人化初年度の決算であり、従来の家計簿的な決算報告から企業会計に則った決算報告に切り替える必要があったため、杉本会計事務所に法人化後の決算書類を作成して貰ったのだが、小股常務理事が種々不慣れなことがあって、会計監査のお二人、特に髙辻功一監事にはたいへんなお手間を取らせてしまった。この紙上を借りて、お礼とお詫びを申し上げたい。また、総会に先立つ理事会においても、来年度に向けて改善すべき点について、竹安数博理事から適切なアドバイスを頂いた。2 つの決算報告は、総会において満場一致で承認された。

2．平成 19 年度事業予算案（表 2）についての承認

満場一致で可決された。

表 1　H18 年度暫定予算および決算

（任意団体：H18 年 4 月－10 月末日）

収入の部	H18 年度 暫定予算	H18 年 10 月決算
前年度繰越金	4, 089, 281	4, 089, 281
書籍売上	1, 500, 000	655, 210
出版料（著者から）	3, 000, 000	306, 950
出版助成金	1, 000, 000	6, 040, 000
出版分担金	200, 000	49, 475
出資金（1 口 10, 000 円）	200, 000	30, 000
広告料	2, 000	0
利子	1	429
雑収入（版権取得費、その他）	1	9, 354
合計	9, 991, 283	11, 180, 699
支出の部	H18 年度 暫定予算	H18 年 10 月決算
1 直接出版関係費用		
(1) 製造費	3, 000, 000	4, 085, 915
(2) 運送・発送費	100, 000	22, 380
(3) 編集デザイン料	600, 000	442, 350
(4) 企画出版	500, 000	0
小計	4, 200, 000	4, 550, 645
2　事務費用		
(1) 交通費	50, 000	54, 720
(2) 通信費	150, 000	87, 928
(3) 消耗品費	50, 000	10, 366
(4) 備品費	100, 000	504
(5) 出張費	100, 000	0
(6) 会議費	30, 000	17, 450
(7) 調査研究費	100, 000	3, 700
(8) 広報・広告	350, 000	97, 150
(9) 渉外費	30, 000	0
(10) 光熱水費	50, 000	0
(11) 業務委託	500, 000	533, 500
(12) 振込支払料	30, 000	8, 804
小計	1, 540, 000	814, 122
3　その他		
(1) 書籍売上著者精算	1, 600, 000	1, 543, 060
(2) 書籍買取り	120, 000	0
(3) 出資金払い戻し	0	60, 000
小計	1, 720, 000	1, 603, 060
4　次年度繰越金	2, 531, 283	4, 212, 872
合計	9, 991, 283	11, 180, 699

（単位：円）

3．理事長、常務理事、理事の選出についての承認

設立総会において選出された現役員の全員が、満場一致で選出された。

4．大学統合による事務所所在地の変更と役員報酬について定款変更の承認

平成 19 年 3 月に、大阪女子大学がそれまでの大仙キャンパスから中百舌鳥キャンパスに移転したため、OMUP 事務所も同時に移転した。事務所の所在地は定款の記載事項であるため定款の変更を行った。後日、大阪府及び法務局にも事務所移転の

表 2　H18 年度収支計算書及び H19 年度予算書
(H18 年 11 月 1 日ーH19 年 3 月 31 日)

科目	H18 予算額	H18 決算額	H19 予算額
事業収入			
助成金収入	0	915, 500	3, 450, 000
寄付金収入	2, 322, 872	1, 523, 622	1, 000, 000
入会金収入	1, 890, 000	1, 970, 000	100, 000
書籍売上	700, 000	884, 996	3, 000, 000
出版収入	3, 000, 000	1, 450, 000	3, 000, 000
売上割戻	0	△399, 869	△1, 500, 000
その他の収入			
受取利息	1	2, 069	1
当期収入合計	7, 912, 873	6, 346, 318	9, 050, 001
売上原価			
製造費	1, 500, 000	656, 888	5, 450, 000
編集デザイン料	500, 000	351, 750	600, 000
管理費			
給与手当	300, 000	115, 000	1, 370, 000
外注費	500, 000	85, 000	600, 000
旅費交通費	25, 000	15, 360	30, 000
通信費	65, 000	72, 081	100, 000
交際費	10, 000	232, 120	50, 000
会議費	10, 000	4, 260	240, 000
リース費	0	61, 110	0
消耗品費	25, 000	5, 916	50, 000
租税公課	1	413	10, 000
運賃	0	11, 440	20, 000
事務用品費	0	5, 220	50, 000
広告宣伝	240, 000	661, 660	240, 000
支払手数料	0	10, 021	20, 000
雑費	35, 000	131, 250	150, 000
法人税等	250, 000	29, 100	70, 000
当期支出合計	3, 460, 001	2, 448, 589	9, 050, 000
当期収支差額	4, 452, 872	3, 897, 729	1
次期繰越収支差額	4, 452, 872	3, 897, 729	3, 897, 730

(単位：円).

届け出を行った。役員報酬に関する定款変更は、従来すべての役員は無報酬との定款の定めであったが、常務理事２名に役員報酬を与えることができるように改正したものである。２件の定款変更とも、満場一致で可決された。なお、役員報酬に関する定款変更は、大阪府知事の認可事項であるため、現在大阪府に役員報酬にかかる定款変更の許可申請を行っており、本年 10 月ころに認可される見込みとなっている。報酬額は、その年度の事業内容等を勘案しながら、年度末に理事長が決定し、次年度の総会に報告することとしている。

５．杉本会計事務所に会計事務を、サイエンスアシストに広報企画など、オー・エル・センターに電話秘書、の業務提携の承認

満場一致で可決された。

６．今後もより質の高い本を出版できるよう推進することでの合意

満場一致で承認された。

総会終了後、場所を大阪府立大学生協食堂に移し第 15 回 OMUP サロンを開催した。サロンの題目は、「Time Series Analysis And Its Applications の出版を終えて」で、著者である竹安数博、樋口友紀両氏の報告があった。続いて同会場で行われた懇親会において、会員相互の親睦が図られた。

第 14 回及び第 15 回 OMUP サロン報告

常務理事　足立 泰二

第 14 回 OMUP サロンは去る 2 月 23 日（金）15 時から大阪市立大学天王寺キャンパス（医学研究科研究棟）で開催。2006 年 11 月「マゴットセラピー」の刊行をお祝いして、訳者の沼田英治先生（大阪市立大学大学院理学研究科、昆虫学）と三井秀也先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科、心臓血管外科）をお招きし、刊行の裏話とマゴット（うじ虫）の知られざる魔力を拝聴した。なお、今回の司会は OMUP の理事で会計監事をお勤めいただいている大阪市立大学大学院医学研究科教授の圓藤吟史先生にお願いした。

まず、沼田先生からはマゴット、ここではヒロズキンバエの分類上の位置関係に始まり、うじ虫の生物としての特性を大変分かりやすくご説明頂いた。旧口動物に含まれ、アリなどとともにこの地球上の生き物ではバイオマスとして最大であること、変態の変化量の最も顕著なものであって、①完全変態（部屋入りカプセル）、②速い成長、ウジは真核生物で最も早い成長をし、ひと夏で 9×10^{20} の子孫を増やす。③極めて効率的な消化器系を有し、唾液腺から消化液を出して周囲に抗菌物質、アンモニア等を分泌する。これらはウジの生物機能活用の拡がりを示すものとして鮮明な解説でもあった。

次いで、三井秀也先生はマゴットセラピーの歴史的事実から説き起こし、最近の治療事例に亘って臨床例を示しながらの明快な解説であった。最近の医療事実としての「難治性潰瘍の発生多発、とくに糖尿病による足の壊死で切断する事例の 90%以上が完治。驚異の成功例と言える。

今回の OMUP サロンは公開とし、多くの医療関係者に出席を促す好機会ではあったが、残念ながら今回もサロン参加者は数名の若手医学関係者のみに限定されたのは残念至極であった。因みに、その後三井先生の啓発的努力により、テレビその他のマスメディアを通じ社会的合意を得られつつある状況を見聴きするにつけ、出版活動も立派な社会貢献を果たしているものと、会員の皆さんと共に喜びたいものである。

第15回ＯＭＵＰサロンは6月２日、NPO 法人大阪公立大学共同出版会懇親パーティの前座の形で、「Time Series Analysis and Its Applications の出版を終え

て」と題して開催された。著者である竹安数博先生（大阪府立大学経済学部教授、数量経済学）と樋口友紀さん（大阪府立大学大学院経済学研究科、特別研究員 DC1）は前半はパネルを用いた、時系列解析の応用として各種の予測精度、設備保全技術の向上、ブランド選択推移構造分析として、難解な理論を分かりやすくご説明いただいた。とは言え、大変高度な理論的数理経済学的な論証ゆえ、参加者全員に理解できるような単純で明快な説明とまでは言えなかったが、今後の出版意欲を含めて、竹安先生のOMUPへの貢献を期待するサロンとなったことは言うまでもない。

出版、もう一つの社会貢献
—助成出版のすすめ—

常務理事　足立 泰二

はじめに

新たなミレニアム、千年紀のスタートとともに、大阪公立大学共同出版会（略称、OMUP）は大阪市立大学、大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学ならびに大阪府立看護大学医療技術短期大学部を構成する教員を中心に、任意団体として設立された。国内では初めての複数大学の構成員が立ち上げた学術出版会である。その後、2005 年 4 月には上記府立の 4 大学ユニットが統合され、本出版会も大阪市立大学と大阪府立大学に所属する教員を主体とする組織として事業展開を順調に進めてきた。設立 5 周年を機に、出版が単に大学の学術情報伝達だけに止まるのではなく、一般社会との関りを一段と高める場、交流媒体としても寄与すべきとの観点から NPO（特定非営利活動法人）として認可申請をした。幸い、これまでの実績が認められ、従来の書籍出版が営利を伴う商業活動であったのに対し、学術に携わる者の非営利を事業主体とする法人として認可されたものである。

我々の活動が、書籍出版を通じてささやかながら社会に貢献する一助になればとの一念から、この機会に、私ども OMUP の目指すものを披露し、賛同と協力の礎を築き上げていただこうとするものである。

現在のわが国の出版をとりまく状況

わが国の「出版業界」は 3 者に類別されている。企画・編集を受け持つ「出版社」、刊行物の取り次ぎ・卸などの流通部分を掌握する「販売会社」、主として店頭などで販売を担当する「書店」である。ここに次のような統計データがある。上記「出版社」、「販売会社」、「書店」の順に、1995 年時点でそれぞれ 4324、42、27,804 だったのが 2005 年には 4260、31、16,000 と過去10年間に読者に接点を持つ「書店」の激減ぶりが目立つ。また2006年 1 年間で900店舗の書店が破産したとする最近のデータもある。情報化時代の出版物の入手方法、利用方法もいやおう無しに変わってきているのも事実であるが、外国との比較によって日本の傾向を次のように把握することが可能である。

日本の出版業界の傾向

1. 書店の倒産顕著　店頭に並ぶコミック本の売れ行きはコンスタントだが、雑誌類（2006 年で月刊誌 2743、週刊誌 138、その他 1668）は減少傾向。とくに最近では店頭だけでなく地下鉄コンコースなどでの 0 円・広告雑誌も大流行で、カラー印刷で視覚に訴えるものが目立つ。大型店も増えてはいるが、大型といえども倒産しないわけではない。
2. 漫画文化全盛　大学生の読書傾向（欧州と日本比較）コミックと韻・散文集との割合は欧州で 3 : 7、日本で逆の 7 : 3 と言われて久しい。最近ではヨーロッパにも徐々に漫画やアニメが浸透しているのだそうだが、日本の変わりようはさらに一段と加速し、大学に漫画学部やコミック学科が出来るほどだから、まさに漫画映像文化全盛である。もっとも、読み聞かせ本も若干復活傾向にあるのも事実だが。
3. 販売会社の変化　日販・東販が全取扱量の 7 割以上、大阪屋が 1.5 割で頑張っている方である。ただ、最近では大手書店、アマゾン、楽天などがインターネット販売をしており、迅速な配布とコンビニでの受け取りなども出来るようになって、内容を十分知らないまま、書籍までもが通信販売化へと向かっている。これも日本で顕著な傾向である。それとともに店頭でじかに手にして読む悦び、買う悦びが薄れ、とくに洋書店に至っては風前の灯火といってよい。
4. 出版社の東京一極集中　出版社の倒産も聞くが、依然国内でおよそ 4000 社は存続している。でも、東京一極集中傾向は変わらない。かつての関西、とくに大阪での出版社の復活が見えてこない。一方、地方文化の象徴的現象は沖縄に出版社が 60 社も存在すること。これからの地方文化創生に一縷の望みを託すとするならば、沖縄における出版活動を象徴的と考えるべきではないかとも思われる。
5. 新書・文庫も頭打ち　電子機器をはじめ、日本の象徴である軽薄短小もここに来て、やや限界なのだろうか。やや薄めのノウハウ本がベストセラーになっていることは多い。著者なのか口述者なのか、あるいはゴーストライターなのかも分からないような無責任本の売れは良いようだ。

専門書・学術書の行方は？

大学の法人化で大学名付き出版会が「雨後のたけのこ」のように出てきている。だが、いくつかの私立大学のように、事務職員も出版費用も大学丸抱えではそう長続き出来るようなものでもない。出版物を競争入札で買い叩けば良いものとは言えないし、出したらそれでよいと言うのとは意味が違う。出版社の質、品格が問われるのは必定であるから。

しかし、大学がその構成員である教員の主義主張の場であり、学術研究の成果を公表する場であることも事実であるのだから、大小を問わず、各大学に専門書・学術書発行の場があることは大学の基本的条件だと言っても過言ではない。少部数になるから高価格、従って買わない、買えない、の悪循環は何処で断とうとするのだろうか。

次に、サイテーション・インデックスの欺瞞。自然科学分野では、とくに技術的プライオリティ、オリジナリティを重視する余り、発行された情報の引用度数を雑誌別に評価値化する方法が横行している。読者の多い分野で短くてもいち早く記載する論文などの場合、引用頻度は当然高くなる。専門書・学術書の中でも実験書、指針・解説書に至っては、読者層は限定的ではあっても、一定数は確実に購買される。しかし、なかには数年で世間に残らないような手技になるものもある。その典型的なものが国際会議などの会議報告、proceedings がそれに相当する。少部数発行、完売と言うケースも多いし、会議の始まる前に原稿を集め、受付と同時に手渡す学会もあるほどだ。会議の議論とプレゼンテーションには事前に目を通しておくのと置かないのとでは議論の白熱程度が相当に違うのも事実なのだから。また一方、都合によって会議に出られなかったおり、公開していない本が入手困難のことの多いこと。そのような際に役に立つのが大学出版会からの刊行物。筆者自身、何度救われたことか。日本での洋書出版、英書であっても売れないから出版を引き受けない、引き受けても極めて高価なものになる。文化の多様性が求められるなか、大学出版社が担うべき出版事業は益々多様なものにならざるを得ないはずだ。

OMUP の目指すもの、ひとつの可能性

OMUP は 2006 年 11 月 1 日をもって、これまでの任意団体としての組織から、株式会社でもなく、財団法人や有限責任法人でもなく、NPO（特定非営利活動法人）に移行した。このことは、現在学生、若者の文字離れの進むなか、広く活字文化の永続性にささやかながらも寄与し、さらには映像との融合・相互補完性と効率化とを図ることへの理想を掲げ、大学発の学術情報発信機能だけではなく、一般社会にも貢献しようとするものである。その意味で、出版活動「もうひとつの」のボランティア＝社会貢献、NPO 法人として認知されたゆえんでもある。粗製濫造ではなく、キメ細やかな気配りをしつつ、若手の読者および著者発掘、長年にわたる学術研究の社会還元としてシニアの啓蒙書出版を通じ、異分野間の「切磋琢磨」、刺激効果にも可能性を啓こうとするものである。低廉で上質な書籍刊行を推し進め、「洛陽の紙価を高める」道を歩もうとする。その狙いの一つが、我々の「助成出版の奨め」である。

助成出版の奨め

例 1. 科学研究費補助「学術図書刊行費」への申請のお手伝い

例えば、日本学術振興会科学研究費 (旧文部科学省科研費) 補助金に申請するのには、完成度の高い原稿と出版業者の図書刊行見積りを添え、申請することが求められる。その際、専門性の高い出版物は一般出版社の見積りでは高価にならざるを得ない。その点で大学出版会は高い評価を得られており、出版物の情報流布も販売業者一辺倒ではない。とくに外国語での出版については極めて高いメリットがあることが、実例で証明されている。もちろん、これらは出版前申請であるので、採否決定の善後策を念頭においてお手伝いするので、貴重な研究成果、学術主張のプライオリティは堅持され、迅速・適正な刊行が実現できる。

例 2. 当該学会の研究成果助成制度への申請協力

映像を伴った情報がマスメディアを通じて、そのデータの信憑性が検証されないまま、どんどん流れている昨今、学会発表などでの学術的証明あるいは論議が不十分のまま流布される傾向がある。人文、社会、自然科学を問わず、すべての学会では、過去において口頭により、あるいは専門誌上で、最近ではポスタープレゼンテーションと称して一定時間内に表題を見て集まる研究者たちと、いわばミニコミュニケーションも多くなってきているご時世である。責任ある情報発信こそ望まれるべきであり、サイエンスの発展に学会の活性強化が叫ばれる所以でもあう。その中にあって、最近の人文・社会科学系学会を中心に、活性化策のひとつとして、とくに若手学会員育成のための奨励事業として出版助成が盛んになりつつある。派手なマスコミに登場させるよりは、よほど地味であっても真の学術的主張が可能なはずである。結果として、何十年も蓄えおいた、大御所のご苦労をねぎらい、その学の「蘊蓄」を拝聴するより、大学院博士課程など、まだまだ成熟しきっていないと思われるものであっても、それまでの成果をまとめて、発表し、主張することから得られる物が大きいといえるのではないだろうか。学会などにおける権威主義を払拭するためにも極めて積極的な学会活動といえる。そのような場にあって、前言訂正の困難、情報保存の優れた書籍刊行の奨励とその助成はきわめて優れた意義を持つ。学位論文の主要な主張部分を公にし、積極的に、低廉価格、迅速、頒布範囲の広さなどの利点を生かせるのも、大学出版会であると言えはすまいか。学会への積極的働きを含めて、出版助成を奨励して行きたいものである。

例 3. 出版各社の賞、出版会独自の出版援助（メセナの掘り起こしと出版助成の働きかけ）

古代ローマの政治家で文芸の庇護に努めたMaecenasの名に由来するという、芸術・文化の庇護活動、メセナは、さしずめ現代にあっては、法人会社ということになるだろうが、日本では儲けのあるときは湯水のように出した研究助成も、バブルがはじけ不景気となると「交際費カット」並みの扱い。無い袖は振れない」というのだろうか。文化基盤の浅さが露呈される。直木賞だの芥川賞など、出版社にとっては売れる小説なら出版社も賞を出しているではないかと思うのは小出版社の「ひがみ」なのだろうか。そうは言うものの、小出版社であっても出版助成をし、出版後に賞を出している大学出版社もある。それらの状況を紹介するとともに、我が OMUP も独自の出版助成制度をつくろうと模索中である。そのひとつが、いまや 2 つになった大阪の公立大学、大阪市立大学と大阪府立大学の両大学当局に働きかけ、それぞれの大学が選んだ優れた学術論文を刊行するというものである。大学にとっても低廉価格、迅速、頒布範囲の広さなどの利点を活用できるはずである。

おわりに

日本大学出版協会(我が OMUP は未加入)所属のおよそ 30 社だけをとってみても、1) 株式会社、2) 中間法人、3) 大学事務

機構に所属、がほぼ同数であって、2,3 の大学出版会を除けば、自立した出版社とは言えない状況である。まして、OMUP のような出版活動はまだまだ社会認知を受けているとはいえない。NPO としての活動を通じて一層充実した出版事業、「もう一つの社会貢献」として発展させたいものである。

本記事は、大阪公立大学共同出版会創立 5 周年と NPO 法人化を記念してジュンク堂書店大阪本店で開催したブックフェア（2006 年 11 月 4 日～12 月 31 日）期間中、同堂島ビルで実施した公開講演会シリーズ（3 回、6 人）の 1 つとして取り上げたものである。当出版会の主張を述べたもので、会員の皆様にも周知いただくつもりでこのニュスレターに登載することにした。

OMUP 事務局からのお知らせ

事務局が移転しました

平成 19 年 4 月 1 日より、大阪府立大学大仙キャンパスから大阪府立大学中百舌鳥キャンパスに事務局が移転しました。新しい事務局は中百舌鳥キャンパス A14 棟（旧工学部 4 号館）2 階 221 号室です。月、水、金曜日の午前中は事務担当者が在室しています。OMUP の既刊書籍などが展示してありますので、会員皆様の情報交換の場としてばかりでなく、これから書籍の出版をお考えの方にも参考になると思いますので気軽にお立ち寄りください。

移転に伴い住所、電話・ファクシミリ番号が変わりました。

新住所：599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学中百舌鳥キャンパス内
新電話番号　：072-251-6533
新ファクシミリ番号　：072-254-9539
E-mail　:omup@hs.osakafu-u.ac.jp
http://www.omup.jp/

ホームページが新しくなりました

日本語版に加え英語版での提供を始めました。さらに、一部の出版物については、ホームページからダウンロードできるようになっています。現在、平成 19 年 3 月発行の「Knot Theory for Scientific Objects」の内容がダウンロードできます。

前地敏子さんが退職されました

平成 16 年から 4 年間、OMUP の事務を担当されていた前地敏子さんが 6 月 30 日をもって OMUP を退職されました。当出版会設立直後から NPO 法人設立、事務局移転の大変な時期を担当してくださり、特に NPO 法人設立時にはひとかたならぬご尽力をいただきました。有り難うございました。

「マゴットセラピー」の内容が新聞 2 誌に紹介

OMUP 出版「マゴットセラピー」（W.フライシュマンほか 2 名著、沼田英治、三井秀也共訳）が産経新聞（5 月 1 日付第一面）、朝日新聞（7 月 1 日付医療欄）で大きく紹介されました。アマゾンでの売ゆきも大変好調との事です。

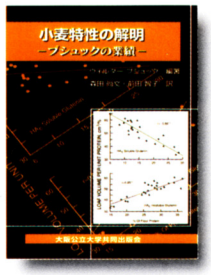
「OMUP会員が新入生にすすめる本2007年特別版」と「大阪公立大学共同出版会　出版目録」刊行

今回は「OMUP 会員が新入生にすすめる本 2007 年特別版」として、第 5 号に代わって作成しました。新たに寄稿していただいた原稿と、既刊の第 1 号から第 4 号に掲載した原稿で構成されています。また、既刊本を一堂に紹介している「大阪公立大学共同出版会　出版目録」も出来上がりました。

新刊書の紹介

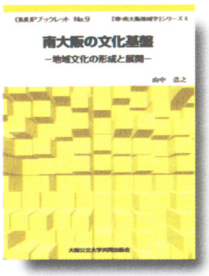
Time series analysis and its applications
時系列解析とその応用
竹安　数博（大阪府立大学教授）
樋口　友紀（日本学術振興会特別研究員）
共著
ISBN978-4-901409-28-5 C3034
定価：3,000 円＋税
時系列解析にかかる諸問題を解決するための様々な試みを解説。

Knot Theory for Scientific Objects
Edited by Akio Kawauchi
ISBN978-4-901409-29-2 C3041
定価：9,400 円＋税
科学的分野における「結び目理論」に関する国際会議の会議録。分子図、スピンネットワークあるいはDNA結び目などに関する専門論文が 23 編収録されている。

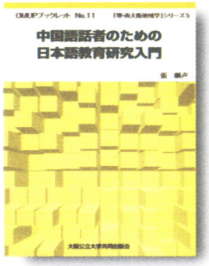


小麦特性の解明
－ブシュックの業績－
ウォルター　ブシュック編著
森田　尚文（元大阪府立大学教授）
前田　智子（兵庫教育大学大学院准教授）
共訳
ISBN978-4-901409-30-8　C3061
定価：3,200 円＋税
ウオルター・ブシュック教授のマニトバ大学退官を記念して行われた講演会をもとに書かれた15編の論文で構成。

かつて私は軍国少女であった
渡辺　孝子著
渡辺　幸博編
ISBN978-4-901409-32-2　C0095
定価：1,600円＋税
生涯教育者を貫いた一女性の、穏やかに、そして強く生き抜いた人生の記録。



OMUP ブックレット No.9
「堺・南大阪地域学」シリーズ 4
南大阪の文化基盤
—地域文化の形成と展開—
山中 浩之著（大阪府立大学教授）
ISBN978-4-901409-24-7　C1339
定価：800 円＋税
泉州（和泉）と南河内からなる南大阪の地域文化を検証する。



OMUP ブックレット No.11
「堺・南大阪地域学」シリーズ 5
中国語話者のための日本語教育研究入門
張 麟声著（大阪府立大学教授）
ISBN978-4-901409-31-5　C1381
定価：800 円＋税
母語転移「観」と対象研究に関する時代の流れを検証し、成人学習者の様々な段階での母語転移の可能性を探り、それに対する習得・対照・類義表現といった三位一体の研究構想について検討する。

OMUP ブックレット No.12
「堺・南大阪地域学」シリーズ 6
関西国際空港が拓く南大阪の可能性
山田 浩之（関西鉄道協会都市交通研究所所長）
今木 秀和（桃山学院大学教授）　共編著
ISBN978-4-901409-33-9　C1330
定価：800 円＋税
関西国際空港の活性化について多角的に調査研究し、政策提言をとりまとめている。

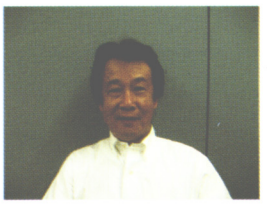
新顔登場

当出版会もNPO法人としての社会的責任を担って今までにも増して学術振興および文化の発展に寄与することになりました。この時期に OMUP の運営に心強い 3 名の新人を迎えました。それぞれの専門分野で当出版会を支えていただく事になりますので宜しくお願いします。

大阪府立大学生活協同組合
専務理事　永吉 勝明

『共同出版会』と生協とでは、生協の店舗でお手伝いできること、また読書推進活動としてともに協力し合いできる事など色々あるかと思います。学生の読書離れが言われて久しいですが、「読書の楽しみ方」なんかを生協から発信したいと考えています。何か一緒にできる事がございましたら遠慮なく生協へお申し出ください。

大阪府立大学生活協同組合
書籍購買部　大竹 聖和



大阪府立大生協の大竹と申します。書籍はかれこれ20年くらいの経験です。京都の立命館生協、同志社生協を経て府大生協にこの2月に着任いたしました。大学出版会さんとのお付き合いは、初めてです。いろいろとわからない事も多々あると思いが、今後ともよろしく、ご指導をお願いします。

大阪公立大学共同出版会
事務担当　児玉 倫子

この度、前地さんの後任として事務を担当することになりました。一冊の本がこの世に出るまでの工程を初めて知ることが出来ました。たくさんの人の苦労と努力の結晶である私たちの本が、一冊でも多く皆様に読んで頂けるよう願っています。

大阪公立大学共同出版会事務局

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学、大阪府立大学の教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

(1)会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
(2)会員の学術図書の刊行頒布
(3)会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
(4)その他前条の目的を達成するために必要な事業

などをおこなっている NPO 法人です。参加を希望される方は下記事務局へお問い合わせください。

599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学内
NPO 法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)事務局
電話：072-251-6533
ファクシミリ：072-254-9539
e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp
URL：http://www.omup.jp/
入会金：一口一万円
振込先：三菱東京ＵＦＪ銀行　中もず支店　普通　3976510

編集後記

今年は４年に一度のセミの当たり年と聞きました。まだ調査段階ですが、セミの抜け殻の数を毎年調べた結果、この予測が立てられたそうです。そういわれてみれば、セミの啼く声が例年に比べ大きくなったような気もします。年々、虫網を手に暑さもいとわずじっと目をこらして木を見上げる子どもの数が、減っているような気がします。もっと自然に触れ、興味を持ってほしいと願ってやみません。　(N.K)